

## － 3月卒業生紹介 －

みなさまのご支援でこの3月は 23 名の小学生、19 名の高校生、10 名の大学生が卒業できました。

### \* CMIP 関係奨学生

〈小学校 10 名〉 Rosemarie Malingun, Edna Banduli, Irene Sague, Michelle Pendaton, Elton Jhon Lawian Jurlin Love Cato, Analyn Esrtrabon,

Defania Masalon, Shirley Dimpas, Angelina Yayot

〈ハイスクール 5 名〉 Andrelyn Tacuayan,

Melanie Motong, Jofrey Oray, Christina Bagi,

Raynie Simpall, Mary Ann Organ

〈カレッジ・専門学校 8 名〉 : Francis Laco,

Megrilyn Barol, Edwin Aknaban, Loreta Quindo,

Analiza Labuayan, Cherelyn Masindong,

Janessa Montong, Lilibeth Laguhil

以上の卒業を受けて、今年度新規受け入れを以下のように CMIP に提示しました。

小学生最大 20 名 (初等教育重視の方針を示して、CMIP の確実なモニターを条件に枠を増やしました)

ハイスクール4-6 名、カレッジ4-5 名 (中退防止の新方策を検討している CMIP に選択の余地を残しました)

\* PFP 関係は学校運営全体支援のため、特定の里親がいる卒業生のみ名前をご紹介します

〈ブラクール小学校卒業総数 13 名〉

Dondon Bongon, Ana Rose Gubat, Jerome Timlas,

Analyn Timlas, Mark Anthony Saluni,

Joemar Saluni

〈ハイスクール卒業総数 14 名〉 Joseph Bongo

Katrina Carmela Pedral, Kennith John Pedral

〈カレッジ卒業 1 名〉 Redel Simson

ブラクールでは小学校卒業生は原則として全員併設のハイスクールに進学します。カレッジ進学についてはあしなが奨学金で新規に 2 名受け入れを提示しました。



HANDS からのお祝いのマロンとツバウを着たブラクール卒業生

\* パササンバオ(PIHS)関係でもカレッジ学生1名 Inin Rombaoa が看護師コースを卒業しました。

## － 国家試験合格へむけて続く努力 －

WE21さいわい助成事業

卒業式後も勉強を続けている学生たちがいます。小学校教師を目指す、フランシス、メグリリン、エドウィン の 3 名です。

フィリピンの教職課程は日本と異なり、大学 4 年生の 1 年間のほとんどを教育実習にあてます。前半は教室の後ろに座り、指導の先生がどのように授業を進め、どのように子どもたちとクラス全体をマネジメントしているかを観察します。そして大学へ戻って、効果的な教材の作成方法などを学び、後半は実際に教壇に立ちます。教育実習を経験した時の気持ちを 3 人はこんな風に語ってくれました。  
フランシス:ひとりひとりの子どもは、態度も異なるし、興味も異なります。彼らをまとめるのはとても大変。でも子どもたちが大好きです。

メグリリン:2 年生と 4 年生のクラスで実習しました。公立小学校の生徒は理解の速度がさまざまで苦労しました。

エドウィン:実習が始まるまで自分にできるとはとても思いませんでした。生徒は時々教室の外に行ってしまう。理解を助ける教材を工夫したことは素晴らしい経験でした。

そして国家試験は卒業後の 9 月か 10 月。在学中には試験対策の授業は行われず、試験に受かるかどうかは個人の能力と、試験対策の指導が行われる補習コースに通ったかどうかにかかってくるのですが授業料もかかります。先住民族にとって国家試験に合格し、教師になるというのがどれだけ後輩たちや村人を勇気づけるかを「WE21 さいわい」が理解してくださり、助成金で3名は受験対策コースを受けることになりました。授業料と交通費、その間の食費が支給され、秋の試験に備えます。



教職用制服を着たフランシス、メグリリン、エドウィン(左から)。エドウィンが手にしているのは分厚い卒業論文。